

## JOMF 派遣医師便り (2018. 10)

## ◆シンガポール◆

## 喫煙開始年齢の引き上げ

シンガポール日本人会クリニック

日暮 浩実

シンガポールは、愛煙家にとってますます住みにくい国になりそうである。1970年代から始まったタバコ抑制政策の甲斐あって、喫煙率は近年まで長期低下傾向にあった。国民全体の喫煙率は1977年の23%から1992年には18%、2004年には12.6%にまで下がったが、その後は下げ止まり、12~14%で推移している。成人男性に限れば、1977年には42%であったが、昨今は(統計にもよるが)23%である。

また、当地の最近の調査によれば、喫煙者の95%が、21歳までに喫煙を始め、45%が18歳から21歳までの間に習慣的喫煙者になったという。18~24歳の喫煙者の調査では、初めてタバコを吸った年齢も半数が15~17歳、40%が12~14歳とのことである。

シンガポールでは、喫煙が法的に可能となる年齢は現時点では18歳<sup>註1</sup>であるが、これが、段階的に引き上げられることが昨年末に決定され、いよいよ2019年1月1日から施行され、19歳となる。さらに、2020年には20歳、2021年には21歳まで引き上げられる予定である。シンガポールでは21歳になると成人とみなされるので、まさにタバコは大人になってからということになる。いきなり21歳にしないのは、そうすると既に習慣的喫煙を開始した例えば、19歳、20歳の人を法律で罰しなくてはならなくなる<sup>註2</sup>といった混乱を避けるという意味合いもあろう。喫煙に厳しいシンガポールをしてこうした配慮をせざるを得ないということは、喫煙というものの習慣性の強さを感じさせる。ただ、政治的思惑もあるかもしれない。最近、政府は儲け過ぎているとの批判を受け、成人に達したシンガポール国民一人一人に200ドルを還元するという発表をした。実施は12月と聞く。。。話がそれてきたので元に戻そう。

シンガポールはタバコの排除に力を入れているが、確かに下げ止まっている感は否めない。正直、通りで喫煙をする人、車を運転しながら喫煙する人を見かける頻度が減ったような気はしない。昨今は屋内で吸えないので、人目につきやすい屋外禁煙、自車内禁煙が目立つようになったのかもしれないが。

ともかくも、シンガポールは2020年には喫煙率を10%以下とするという国家目標を掲げ、実現すべく奮闘中である。

註1

ちなみに、飲酒は18歳から法的に可。普通自動車免許、自動二輪免許も満18歳以上が要件。

註 2

100～300 ドルの罰金の上、禁煙教育を受ける。